

## 碧峯奨学生インタビュー | 全妙祥さん〈南カリフォルニア大学 MBA〉

MBA で広げた視野を、企業運営の力に

在日同胞の寄付と韓国政府の支援により 1963 年に設立された韓国教育財団は、在日同胞学生の学びを支えるため、長年にわたり奨学金事業を行ってきた。2003 年には、グローバルな舞台で活躍を志す若者を支援するため、「碧峯奨学基金」を創設。今回は、その支援を受けて南カリフォルニア大学で MBA を取得し、現在はスマートニュースのコーポレート部門で活躍する全妙祥さんに話を聞いた。

**Q：現在のお仕事について教えてください。**

**A：**帰国後は、スマートニュースのコーポレート部門に所属し、取締役会事務局や社内規程の整備、ガバナンス、内部統制など、企業運営を支える幅広い業務に携わっています。日本と米国に拠点を置くチームメンバーと連携しながら、グローバルに事業を展開する同社の業務推進に尽力しています。

**Q：現在のお仕事に就くまで、どのような歩みをされてきましたか。**

**A：**幼少期は画家を志していましたが、将来を見据えて経済の知識を身に付けようと、大学では経済学部に進学し、金融を専攻しました。外国籍である自身の立場や専門分野との親和性を踏まえ、専門性を高めるため、公認会計士の資格を取得しました。

その後、大手監査法人を経て、コンサルティング会社で M&A や事業計画策定などに従事しました。出向先の日本政策投資銀行では、複数の M&A 案件の実務に携わり、経験を積みました。

**Q：仕事をする中で、どのような思いがありましたか。**

**A：**仕事は充実しており、会計やファイナンスの専門家としてのスキルが着実に確立されつつあるという手ごたえもありました。一方で、これまでとは異なる視点でキャリアを追求したいという思いも強くなっていきました。

**Q：MBA 留学を考えるようになったきっかけは何でしたか。**

**A：**国内にとどまらず、グローバルな視点で仕事をするために、MBA 取得のための留学を検討し始めました。実は大学時代、大学教授であった父親から「留学してはどうか」と提案されたことがありましたが、当時は就職氷河期の真っ只中であつたため、まずは職に就き、実務経験を積むことを優先しました。この当時の決断については、「ビジネス英語を身に付けることがなかったため、グローバル案件を担当する機会がなく、仕事の幅が狭まった。留学しておけばよかった」と、のちに後悔しました。

**Q：留学に向けて、どのような準備をされましたか。**

A：40歳を目前に控え、「これが年齢的にもぎりぎり」との思いで、米国への留学を決めました。費用は貯蓄でまかなえそうでしたが、決して余裕があるわけではありませんでした。奨学金を取得できないものかと探し、韓国教育財団碧峯奨学金に応募しました。通常は1年以上前から準備をすることが多いですが、わずか半年で留学先を決めたため、奨学基金の最終面談も渡航前々日という慌ただしさでした。

**Q：支給決定の知らせを受けたときのお気持ちはいかがでしたか。**

A：支給決定の通知が届いたのは渡米後でした。物価が高い米国で学資に余裕ができたことで、気持ちが楽になりました。支援を受けられたことに、とても感謝しています。

**Q：MBAでは、どのようなことを学びましたか。**

A：1年間のプログラムでは、会社経営について総合的に学びました。ビジネスコンサルティングでは、4人1チームで実際の企業に対し、戦略アドバイスを提供しました。教授からリーダーに指名され、文化や考え方が異なるメンバーと向き合いながら、授業だけでなく課外活動でのパーティー開催なども行い、コミュニケーションスキルを磨きました。

**Q：MBAでの経験は、現在の仕事にどのように生きていますか。**

A：背景が異なる人と、臨機応変に柔軟に意思疎通を図り、仕事をしていく術を身に付けられたことが、のちの仕事に役立っています。当時の仲間とは今でも連絡を取り合っており、励みになっています。

**Q：帰国後は、どのような経緯で現在の仕事に就いたのですか。**

A：1年間の履修期間を終えて帰国後、会社組織を支える管理部門の業務に関心を持ち、管理人材を募集していたスマートニュースに入社しました。現在は幅広い業務に従事し、新しい経験や学びにあふれていると感じています。

**Q：今後挑戦したいことはありますか。**

A：今後は、世の中の発展に寄与する起業家への会計・経営管理など、組織基盤構築支援にも挑戦したいと考えています。

**Q：韓国教育財団への思いをお聞かせください。**

A：学資の心配をせず、気持ちにゆとりを持って幅広く学ぶことができました。韓国教育財団には、心から感謝しています。

**Q：現在学んでいる碧峯奨学生へ、メッセージはありますか。**

**A：支援を受けて学んでいることを、常に心に留めていてほしいです。そうして発奮すれば、苦しくても頑張れると思います。**

**Q：碧峯奨学基金の意義について、どのように感じていますか。**

**A：能力と意欲があっても、学資が足りずに諦める人は多いと思います。在日韓国人として、韓日の懸け橋として貢献しようという気概を持つ人を支援する碧峯奨学金は、ありがたく、得難いものだと感じています。**

**Q：これから挑戦する若い世代へメッセージをお願いします。**

**A：世界は広いです。MBA では、世界のトップリーダー候補が切磋琢磨することで、互いに高め合うことができます。ぜひ思い切って一歩踏み出してほしいです。**